

# イザヤ書個人研究のための資料キット

LDSプロボインスティチュート日本語クラス：旧約聖書イザヤ書特別講座

イザヤ書はイエスご自身が各自熱心に研究するようにと勧められた預言書の中の預言書です。もし、私達がイザヤ書を敬遠し、日曜学校の時間だけを使って勉強するのなら現在20歳の人の人生が80歳までとした場合、4年毎に回ってくる旧約聖書ではおそらく60年の間に15時間ほどしか学ぶことができません。60年で15時間！これは救い主の言われた「熱心に研究する」ということになるのでしょうか？イザヤ書を理解するためには個人での研究が絶対必要なのです。イザヤ書を理解することは福音の理解度を次の段階に進ませるためにはとても必用な要素です。この教材とインスティチュートのテキスト資料を合わせてイザヤ書を研究するときに皆さんがイザヤ書に隠された真理の光を見出せるようになることを願ってやみません。

2019年9月10日

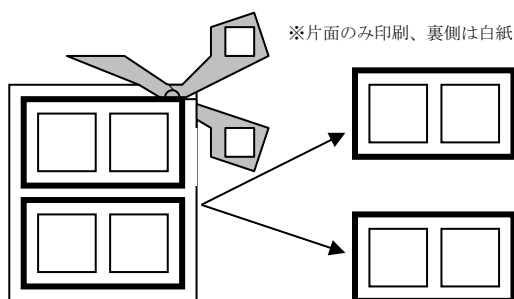
黒木

注) この教材はクラスの生徒の研究の助けとして個人的に作成したものであり、教会の公的出版物ではありません。内容に間違いを見つけた場合にはご自分で修正を加えてください。

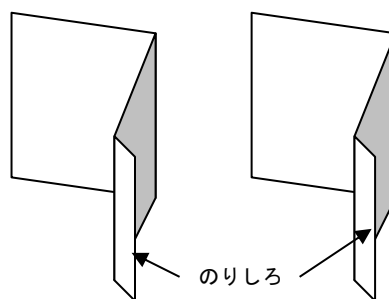
## 資料の組み立て方

この資料は組み立てると蛇腹の冊子になって使えるようにできています。以下の説明の通りに組み立ててください。（両面印刷はしないでください）

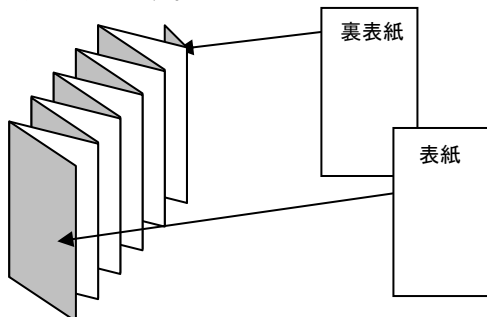
- ①順番に外枠をきれいに切り取ります。1ページから2枚の紙が切り抜けるはずです。



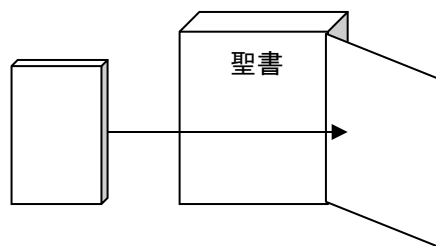
- ②切り抜いた紙を真ん中と「のりしろ」の2ヶ所でたてに折り曲げます。



- ③「のりしろ」の部分にのりをつけ、順番につなげていきます。



- ④完成したら聖書などと一緒に保管します。

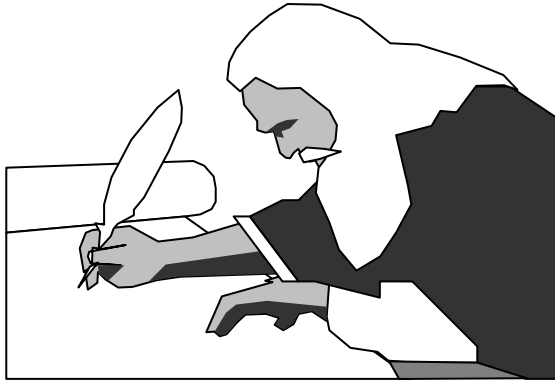


## イザヤ書個人研究用資料

LDS プロボインスティテュート日本語クラス  
2019 年改訂第 3 版

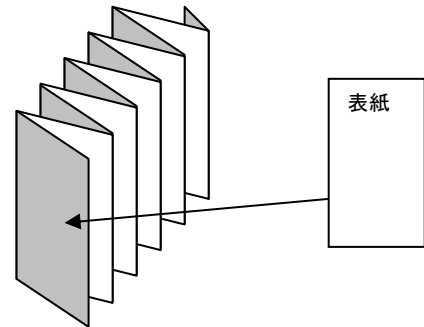
さて見よ、私はあなたがたに言う。あなたがたはこれらのことを調べなさい。まことにわたしは、これらのことを熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える。  
イザヤの言葉はまことに偉大だからである。

(第三ニーファイ 23 章 1 節)



単語表・地図・列王時代の王と預言者表  
福音年表・ヘブライ文法・関連聖句・データ

※型くずれ防止のため、表紙は厚手の紙に印刷してください。



最初のページの裏に  
貼り付けます

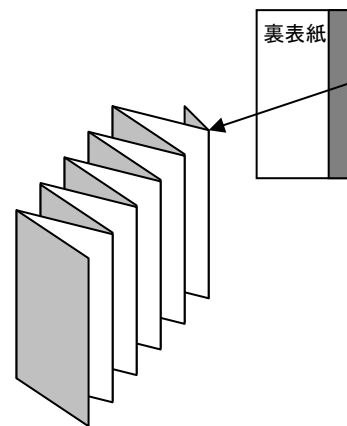
< = 表紙

イザヤ書はイエスご自身が各自熱心に研究するようにと勧められた預言書の中の預言書です。もし、私達がイザヤ書を敬遠し、日曜学校の時間だけを使って勉強するのなら現在 20 歳の人の人生が 80 歳までとした場合、4 年毎に回ってくる旧約聖書ではおそらく 60 年の間に 15 時間ほどしか学ぶことができません。60 年で 15 時間！これは救い主の言われた「熱心に研究する」ということになるのでしょうか？イザヤ書を理解するためには個人での研究が絶対必要なのです。イザヤ書を理解することは福音の理解度を次の段階に進ませるためにはとても必用な要素です。この教材とインスティテュートのテキスト資料を合わせてイザヤ書を研究するときに皆さんがイザヤ書に隠された真理の光を見出せるようになることを願ってやみません。

2019 年 9 月 10 日 黒木

注) この教材はクラスの生徒の研究の助けとして個人的に作成したものであり、教会の正式な出版物ではありません。内容に間違いを見つけた場合にはご自分で修正を加えてください。

の  
り  
し  
ろ



< = 裏表紙

イザヤ書難解単語表 1			イザヤ書難解単語表 2		
～のゆえに	～のゆえに	～によって、～にしたがって	アハズ	あはず	ユダ王国 12 代目の王
アイアテ	あいあて	おそらくイスラエル北部の町。アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる	アブラハム	あぶらはむ	イスラエルの先祖、一族を今のイスラエル地方へ入植させた神の預言者。
青菜	あおな	緑色の葉菜	亜麻布	あまめの	亜麻で作られた布、亜麻はアマ科の一年草。高さ約 1 メートル。茎から繊維をとる
青虫	あおむし	チョウやガの幼虫のうち、体に長い毛がなく、緑色をしているものの総称	アモリびと	あもりびと	イスラエルが来る前にカナンに住んでいた民族。不信仰と異教の神を崇拝していた。
アカシヤ	あかしや	マメ科アカシア属の常緑樹の総称。葉は羽状複葉。花は黄色、まれに白色で、多数集まって穂状に咲く	荒布	あらめの	粗末な布
あがないしろ	あがないしろ	あがないのための代金	アラビヤ	あらびや	アラビヤ半島の国
灰汁	あく	植物を焼いた灰を水に浸して得る上澄み液。アルカリ性を示し、古来、洗剤・漂白剤として、また染色などに用いた	あらぶる	あらぶる	荒々しく乱暴な
飽く	あく	飽きる	アラム語	あらむご	セム語族に属する言語。古代西アジアの共通語として広く使用された
あくた	あくた	ごみ、くず、かす	アリエル	ありえる	エルサレムの別名
明けの明星	あけのみようじょう	明け方に東の空に輝く金星	アル	ある	死海東のモアブにある町
アコルの谷	あこるのたに	ギルガルに近い、エリコの北の肥沃な谷	アルノン	あるのん	死海に東から注ぐ川
麻	あさ	クワ科の一年草。高さ 1～2.5 メートル。茎の皮から繊維をとリ、麻糸にする。	アルパデ	あるばで	アッスリヤによって滅ぼされた古代都市
葦	あし	イネ科の多年草。根茎は地中をはい、沼や川の岸に大群落をつくる。高さは 2～3 メートルになり、茎は堅く、円柱形で、細長い葉が互生する。	荒れ跡	あれあと	崩壊した場所
足台	あしだい	足を置く台	荒塚	あれづか	荒れ果ててしまった塚、あるいは墓
アシドド	あしどど	死海の東、地中海に面した場所にある都市	アンチモニー	あんちもにー	宝石の一種(？)窒素族元素の一。元素記号 Sb 原子番号五一。原子量一二一・八。銀白色の固体金属
足なえ	あしなえ	足に力が入らず歩けない人	アンモン	あんもん	死海北西の国
アシラ	あしら	偶像の神	硫黄	いおう	酸素族元素の一。単体は無臭の黄色結晶。温泉や火山帯に産する。空気中で熱すると青い炎をあげて燃え、悪臭のある二酸化硫黄(亜硫酸ガス)を生じる。火薬・マッチ・医薬品の原料、ゴム製造などに使用
あずまや	あずまや	庭園などに設けた四方の柱と屋根だけの休息所	威嚇	いかく	威力をもっておどすこと
あだ	あだ	うらみ、かたき、しかえしをしようとする相手	憤り	いきどおり	腹をたてて怒ること
頭飾り	あたまかざり	頭につける飾り	憤る	いきどおる	激しく腹を立てる。憤慨する
アッスリヤ	あつすりや	カスピ海の南西あたりに位置する王国、アッシリアとも言う	威光	いこう	人をおそれさせ、従わせる力や勢い。威勢。
あつもの	あつもの	「熱物(あつもの)」の意。魚・鳥の肉や野菜を入れた熱い吸い物。スープ	いこわせる	いこわせる	休ませる、休息を与える
アナトテ	あなとて	おそらくイスラエル北部の町。アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる	いさかい	いさかい	言い争い。言い合い。また、けんか
			石うす	いしうす	穀物を精白したり、粉にしたり、餅(もち)をついたりする石でできた道具
			石がき	いしがき	石でつくった垣根

のりしろ

イザヤ書難解単語表 3			イザヤ書難解単語表 4		
石塚	いしづか	石でできた塚、あるいは墓	乳母	うば	育ての母
石灰	いしばい	生石灰(酸化カルシウム)や消石灰(水酸化カルシウム)などのこと。せっかい。	うまずめ	うまずめ	子供のできない女性
鑄た、鑄る	いた、いる	溶かした金属を鑄型(いがた)に流し込んで器物をつくること	営	えい	軍隊の宿泊場所
いだす	いだす	出す	エグライム	えぐらいむ	死海のすぐ北にある町
いちじく	いちじく	クワ科の落葉高木。高さ約 4 メートル。実は熟すと暗紫色になり、甘く、生食のほかジャムなどにする	エグラテ・シリヤ	えぐらて・しりしや	おそらくエジプトとモアブの中間あたりにあった町
いつくしみ	いつくしみ	いつくしむこと。恵み。慈愛	エジプト	えじぶと	イスラエルの南方に位置する偶像崇拝の国
射手	いて	弓を射る人	エシュルン	えしゅるん	ヘブライ語で「高潔な、義しい」の意
いとすぎ	いとすぎ	ヒメキ科の常緑高木。高さ約 45 メートルにも達する。	エチオピア	えちおびや	アフリカ大陸南部、あるいは全部
いにしえ	いにしえ	過ぎ去った古い時代。過ぎ去った月日。昔。過去	エツサイ	えっさい	ダビデの父、キリストの先祖
いのんど	いのんど	セリ科の多年草。葉は羽状に切れ込む。ピクルスなどの香辛料や薬用にする。姫茴香(ひめういきょう)。ディル。	エドム	えどむ	死海南西の赤土の土地
いばら	いばら	とげのある低木の総称	エバ	えば	約 22 リットルの固体容量
いぶき	いぶき	息を吐くこと。呼吸	箴	えびら	矢を入れる武具
異邦人	いほうじん	イスラエルではない人々	エフライム	えふらいむ	ヨセフの子、十二支族の長子権持つ
忌む	いむ	不吉なものとして避ける、嫌う	エラム	えらむ	ペルシャ湾の北にある国
癒す	いやす	傷をなおす、なぐさめる	エリアキム	えりあきむ	祭司ヒルキヤの息子で善人、キリストのひながたとして書かれている
いらくさ	いらくさ	イラクサ科の多年草。関東以西の山地に自生。高さ 0.5～1 メートル。茎から繊維をとリ、若芽は食用。イラクサ科の植物は繊維組織がよく発達し、ウワバミソウ・カラムシなども含まれる。いたいたぐさ	エルサレム	えるされむ	ユダ王国の首都
インマヌエル	いんまぬえる	予言であたえられたキリストの名、「神われらとともにいます」という意味	エレアレ	えれあれ	死海北東アンモンの地にある都市
ウジャヤ	うじや	ユダ王国 10 代目の王、アザリヤともいう	縁故	えんこ	血縁・姻戚(いんせき)などによるつながり
薄織の上着	うすおり	薄い生地で織られたファッション性の高い布	おおい物	おおいもの	なにかを覆うもの
うちぎ	うちぎ	日常の着物。ふだん着、下着	大路	おおじ	おきな道
打ち場	うちば	打つ場所、脱穀の場所	おけ	おけ	細長い板を縦に円形に並べて底をつけ、たがで締めた筒形の容器
腕輪	うでわ	うでにつける飾り	興す	おこす	衰えていたものを再び勢いづかせる
うとんじる	うとんじる	軽んじる、ばかにする	幼な子	おさなご	小さなこども
うね	うね	作物を植えつけたり種をまいたりするため、畑の土を幾筋も平行に盛り上げた所	おし	おし	口がきけない人
			おじ恐れる	おじおそれる	ひどく恐れる
			落人	おちうど	戦に負け、人目を避けて逃げていく人
			落ち穂	おちぼ	収穫したあとに落ちこぼれている稲・麦などの穂
			おとずれ	おとずれ	便り。消息。音信
			おどろ	おどろ	みだれて生えているとげのある植物
			おのが	おのが	自分の
			おののき	おののき	怖くて震えること。戰慄(せんりつ)。

のりしろ

イザヤ書難解単語表 5			イザヤ書難解単語表 6		
おのれ	おのれ	自分自身	顔おおい	かみおおい	イスラエルの女性が使用していた顔お覆うための布
汚物	おぶつ	汚いもの。特に、排泄(はいせつ)物	髪ひも	かみひも	髪につけるひも飾り
オフル	おふる	紅海南岸(といわれている)の金や宝石を産出する国	かもしか	かもしか	偶蹄(ぐうてい)目ウシ科ヤギ亜科カモシカ属の哺乳類の総称
オリブ	おりぶ	モクセイ科の常緑高木。高さ7〜18メートル。葉は細長く、表面が暗緑色、裏面が銀色で、対生する。5〜7月ごろ、黄白色の香りのよい花を総状につける。黄緑色の実は熟すると黒紫色になり、油がとれる。	からす(枯らす)	からす	池の水などがなくなること
おりをうかがう	おりをうかがう	区切られたある時点。機会	からまつ	からまつ	マツ科の落葉高木あるいはキンボウゲ科の多年草
オレブ	おれぶ	ギデオンによって打たれたミデアンびとの君オレブ、オレブの岩は彼が処刑された場所	ガリラヤ	がりらや	ガリラヤ湖周辺の地域
外套	がいう	防寒などのため、衣服の上に着るゆったりした服。オーバー・マント	仮小屋	かりごや	間に合わせてこしらえた小屋。
かいな	かいな	「うで」の古い言い方。肩からひじまでの部分。	ガリム	がりむ	ガリムもライシもイスラエル北方の町と思われるがサムエル記上25:44も参照のこと
かき	かき	家や庭の区画を限るための囲いや仕切り	カルケシ	かるけみし	スリヤの上方に位置する国バダン・アラムの都市
陰	かげ	物に遮られて、日光や風雨の当たらない所	カルデア	かるであ	ペルシャ湾の北西に位置する国
飾り帯	かざりおび	きれいな装飾を施した帯	カルノ	かるの	アッスリヤによって滅ぼされた古代都市と思われる
鍛冶	かじ	鉄などの金属を熱して打ち鍛え、種々の器物をつくること。また、その職人	カルメル	かるめる	ヨルダン川の西、地中海に突き出ている山脈
かしの木	かしのき	硬い材質の木	かわら	かわら	屋根に敷き、雨風をよけるもの
かしわ	かしわ	ブナ科の落葉高木	姦淫	かんいん	男女が道義に背いた肉体的交渉をもつこと。
被衣	かずき	頭からかぶる衣服	宦官	かんがん	東洋諸国で宮廷や貴族の後宮に仕えた去勢された官吏
かすめとる	かすめとる	うばいとる	灌祭	かんさい	犠牲を捧げるときに添えられる濃い酒、民数記28参照
肩掛	かたかけ	肩にかける布	かんな	かんな	材木の表面を削ってなめらかにする大工道具
割礼	かつれい	陰茎包皮を切開、その一部を切り取る風習・儀礼。アブラハムが神と契約を交わした印としてイスラエル人に伝えられた。	貫の木	かんのき	門の扉が開かないようにする横木。左右の扉の内側につけた金具に差し通して使う。
金敷き	かなしき	鍛造や板金作業をするとき、加熱した材料をのせる鑄鉄または鑄鋼製の台	議官	ぎかん	政府の高官
カナン	かなん	アブラハムに約束された死海周辺の広大な土地	義士	ぎし	人間としての正しい道を堅く守り行う男子。義人
寡婦	かふ	夫に死に別れて再婚しないでいる女性。やもめ。未亡人	鬼神	きしん	化け物
禍福	かふく	災難と幸福。不運と幸運	ギベア	ぎべあ	エルサレムの北に位置する町
かぶろ	かぶろ	頭に髪がないこと。はげ頭	ギベオンの谷	ぎべおんのたに	エルサレム北西に位置する場所
かま	かま	農作業用の道具	肝をつぶす	きもをつぶす	びっくり仰天する。非常に驚く。

のりしろ

イザヤ書難解単語表 7			イザヤ書難解単語表 8		
キルハセテ	きるはれせて	おそらくはモアブにあった町の名前	肥えたもの	こえたもの	よく太った動物、あるいはその肉(食用)
キルハレス	きるはれす	おそらくはモアブにあった町の名前	こがね	こがね	金、黄金
偶像	ぐうどう	木・石・土・金属などで作った像	ゴザン	ござん	アッスリヤによって滅ぼされた古代都市
苦役	くえき	つらい労働	腰から出る	こしからでる	その人の子供、子孫として生まれる
くつわ	くつわ	手綱(たづな)をつけるため、馬の口にかませる金具	腰の帯	こしのおび	ベルト、衣服がはだけないように結ぶヒモ
くびき	くびき	牛馬の頭の後ろにかける横木、自由を束縛するもの	こび	こび	人に取り入って、機嫌をとうとうとすること。へつらうこと
くびり殺す	くびりころす	絞め殺す	こぶし	こぶし	5本の手の指を折り曲げて握りしめたもの。にぎりこぶし。げんこつ
クプロ	くぶろ	現在のキプロス	ゴモラ	ごもら	罪によって滅ぼされた古代の都市
クミン	くみん	セリ科の一年草。種子に強い芳香とほろ苦み、辛みがあり、香辛料としてチーズ・ソーセージ・スープ・シチューなどに用いる。	コンバス	こんばす	製図用具の一。主に円を描くためのもので、適当な角度に開閉できる2本の脚からなる
くるぶし輪	くるぶしわ	足のくるぶしにつける飾り	債権者	さいけんしゃ	お金や法律的によって他人を拘束する人
クロス	くろす	イザヤが書き留めた主によって啓示された将来起こるバビロンの王の名。このおかげでユダ王国は再建されることになる	祭司	さいし	儀式をつかさどる人々(主にレビ族)
くわ	くわ	農作業用の道具	債主	さいしゅ	貸主、お金を貸している人
くわの木	くわのき	クワ科クワ属の落葉高木の総称	祭壇	さいだん	儀式を執り行う場所
薫香	くんこう	よい香りのする煙、儀式の中で炊かれる香り	債務者	さいむしや	お金や法律的によって他人を拘束される人
契約	けいやく	二人以上の当事者の意思表示の合致によって成立する法律行為、約束	サウル	さうる	イスラエル最初の王
ケダル	けだる	ユダ王国周辺、アラビヤ地域にすんでいた民族	酒ぶね	さかぶね	酒を蓄えておく大きな木製の器あるいはぶどうから汁を足で踏んで搾り出すための大きな入れ物
ゲバ	げば	おそらくエルサレムの北東に位置した町	避け所	さけどころ	避難し、逃げる場所
ゲビム	げびむ	おそらくイスラエル北部の町、アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる	下げ振り	さげふり	柱などが垂直かどうかを調べるための道具で、糸の端に真鍮(しんちゅう)の逆円錐形のおもりをつるしたもの
献身者	けんしんしゃ	自らを捧げて何かの目的のために仕える人	さすらい	さすらい	どこというあてもなく、また、定まった目的もなく歩きまわる
香	こう	種々の香料を練り合わせたもの。練り香。また、香木。たきもの	悟る	さとる	物事の真の意味を知る。はっきりと理解する
公義	こうぎ	おおよけに果たすべき義務	サファイヤ	さふあいや	コランダムの一。青色透明、また緑・黄色のものもある。濃青色透明なものは宝石にする
紅玉	こうぎよく	ルビーのこと	さふらん	さふらん	サフラン:アヤメ科の多年草。クロッカスの秋咲き種。11月ごろ紫色の6弁花が咲く。赤い花柱は止血剤などに、また香辛料、化粧品着色剤として使われる
香箱	こうばこ	良い香りのするものを入れた箱、香料箱	サマリヤ	さまりや	イスラエル王国の首都
こうべ	こうべ	あたま	サルゴン	さるごん	アッスリヤの王
行李	こうり	旅行に持っていく荷物。旅のしたく。また、旅。	しえたげる	しえたげる	苦しめる、虐待する、いじめる
肥だめ	こえだめ	肥料にする糞尿(ふんにょう)を腐らすためにためておく所。こやしだめ	シオン	しおん	心の清い者の住む町
			しかばね	しかばね	死んだ人の体

のりしろ

イザヤ書難解単語表 9			イザヤ書難解単語表 10		
敷居	しきい	門の内と外との仕切りとして敷く横木	しろがね	しろがね	銀
嗣業	しぎょう	引き継ぐ財産、次世代に渡す所有地等	しんがり	しんがり	退却する軍列の最後尾にあって、敵の追撃を防ぐこと。また、その部隊
シケル	しける	約11グラムの重さ、あるいはお金の単位金銀硬貨一枚	深紅	しんく	深く深遠な赤い色
シドン	しどん	フェニキアの都市	新月	しんげつ	月の第一日目(ついたち)、月が見えない状態
シナル	しなる	パピロニアの昔の地	審判	しんぱん	さばき
シバ	しば	正確な場所はわからないが、アラビア半島の南方の国と思われる。ソロモン王に高価な品物を送ったシバの女王が有名	深慮	しんりょ	深く考えをめぐらすこと。深い考え。
			髓	ずい	動物の骨の中心にある黄色の柔らかない造血組織
柴木	しばき	山野に生える小さい雑木の総称。また、それを折って薪や垣とするもの	水道	すいどう	水の流れる道
シブマ	しぶま	死海北東アンマンの地にある都市	すえ	すえ	子孫、末裔
脂肪	しぼう	捧げるいけにえの中でも最も価値がある部分	スエネ	すえね	エゼキエル 30:6 を参照するならスエネとはエジプトの都市
シホル	しほる	エジプト東国境の町	すき	すき	農作業用の道具
しもべ	しもべ	雑用に使われる者。召使い。身分の低い者	すずかけ	すずかけ	スズカケノキ科の落葉高木。街路樹に多く用いられ、樹皮は大きくはげて白と淡緑色のまだらになる
笏	しやく	王などが装飾品として手にもつ道具、権威の象徴	すたれた	すたれた	荒れ果てた
シャロン	しゃろん	エルサレム西側の地中海に面する平野	すね	すね	膝(ひざ)からくるぶしまでの間の部分。はぎ
捕囚	しゅうじん	とらわれること。とらわれ	すね飾り	すねかざり	足のすね部につける飾り
祝宴	しゅくえん	祝いの宴会	スベルト麦	すべるとむぎ	ライ麦のこと
主君	しゅくん	自分の仕えている君。君主	すみか	すみか	住む場所、家
主権	しゅけん	国民および領土を統治する国家の権力	隅の石	すみのいし	石造り・煉瓦(れんが)造りの壁の出隅部分に積まれる石。本来は補強のために行われる
受膏者	じゅこうしゃ	「油注がれた者」の意	スリヤ	すりや	イスラエル王国の上に位置する王国、シリアとも言う
樹脂	じゅし	植物、特に針葉樹から分泌される混合物質	するやいなや	するやいなや	すると同時に
しゅろ	しゅろ	ヤシ科の常緑高木。高さは 5 メートル以上になり、幹は直立し、枝がなく、麻のような毛で覆われる。頂上に群生する葉は長い柄をもち、手のひら状で大きい。	誓願	せいがん	神や誓いを立て、物事が成就するように願うこと。
			聖山	せいざん	聖なる山
城郭	じょうかく	城の周囲に設けた囲い。城壁	聖者	せいじゃ	聖なる人
生ずる	しょうずる	植物などがはえる。新しく何かが起こったりできたりする	青銅	せいどう	銅と錫(すず)との合金、ブロンズ
菖蒲	しょうぶ	アヤメ科アヤメ属の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に生える。高さ 30～60 センチ。アヤメ属には、カキツバタ・シャガなども含まれる。古来、アヤメと呼んだショウブはサトイモ科	生命の書	せいめいのしょ	天で書きとめられるという善人の記録
			セイル	せいる	死海南方の国エドムのこと
助言者	じょげんしゃ	助言を与えることのできる人物	せつに	せつに	強く思うさま。心から
諸侯	しこう	支配階級の人々	セナケリブ	せなけりぶ	アッシリヤの王
シロアの水	しろあのみず	エルサレムに周辺から流れ込む小さな小川、シロアムの池の水源	セバ	せば	おそらくエジプト近隣のアフリカの国
			セバルワイム	せばるわいむ	アッシリヤによって滅ぼされた古代都市

のりしろ

イザヤ書難解単語表 11			イザヤ書難解単語表 12		
セブナ	せぶな	ユダの役人の長、高慢邪惡で神から拒まれていた	反	たん	土地の面積の単位。1 町の 10 分の 1(約 10 アール)。
ゼブルン	ぜぶるん	十二支族の一つ	知覚	ちかく	感覚器官を通して外界の事物や身体内部の状態を知る働き
セラ	せら	死海南方エドムの地にある町	ちまた	ちまた	大勢の人が生活している場所、世間
セラビム	せらびむ	セラフ(特別な天使)の複数形	忠信	ちゅうしん	まごころをこめ、うそいつわりのないこと
先見者	せんけんしゃ	神の力によって将来起こるべき事柄を見ることのできる人	仲保者	ちゅうほしゃ	二者の間をとりもつ第三者
戦車	せんしゃ	戦闘用の車。兵士が乗り、馬に引かせた	長老	ちやうろう	年配で経験豊かな人、町や村の指導者
ゾアル	ぞある	死海の南端に位置する都市	ちり	ちり	細かくいすなどが飛び散ったもの。ほこり。元素
ゾアン	ぞあん	エジプトの都市	つかさびと	つかさびと	民を治める人、裁判官
装身具	そうしんぐ	体を飾るためのもの、きれいな服や宝石	月形の飾り	つきがたのかざり	月の形をしたアークセサリー
壮年	そうねん	心身ともに成熟して働き盛りの年ごろ。また、その人	繕う	つくろう	衣服などの破れ損じたところや物の壊れた箇所を直す
そしる	そしる	他人を悪く言う。非難する	鎚	つち	物をたたく工具。頭部はふつう円柱形で、柄が付いている。木づち・金づちなどがある
ソドム	そどむ	罪によって滅ぼされた古代の都市	つばき	つばき	つば、唾液
そむける	そむける	そむく	つまびらかに	つまびらかに	くわしく、こまかく
そら	そら	すっかり覚え込んでいて、書いたものなどを見ないで済むこと	つむじ風	つむじかぜ	うずを巻いて吹き上がる風
胎	たい	母体の子が宿るところ。子宮	連れ合い	つれあい	行動を共にするもの、夫婦の相手
胎内	たいない	妊娠した母親の子宮の中。胎中	ツロ	つろ	フェニキアの都市
大能	たいのう	大いなる力	手さげ袋	てさげぶくろ	ハンドバッグ
たいまつ	たいまつ	松の樹脂の多い部分を細かく割り、束ねたもの。火をつけて照明に用いた	デダン	でだん	アラビヤに位置する国、あるいは都市
たおやか	たおやか	態度や性質がしとやかで上品なさま	デボン	でぼん	死海の東に位置する都市
高い所	たかいところ	「高き所」。祭壇のある場所、神に犠牲を捧げる場所	デマ	でま	アラビヤの町
託宣	たくせん	神からの言葉、おつけ	テラサル	てらさる	アッシリヤによって滅ぼされた古代都市
たそがれ	たそがれ	夕方の薄暗い時。夕暮れ	テレビンの木	てれびんのき	樫の木の種類、とても硬い
脱穀機	だっこき	稲・麦などを脱穀する農機具	天蓋	てんがい	神の御座の上の覆い
手綱	たづな	馬具の一。轡(くつわ)の左右に結びつけ、人が手に取って馬を操る綱	てんびん	てんびん	支点が中央にあるてこを用いて、物体の質量を分銅と比較測定するはかり
たなごころ	たなごころ	てのひら。手の裏	天幕	てんまく	テント
ダビデ	だびで	イスラエルを統一した王、キリストの先祖	倒壊	とうかい	壊れ倒れること
ダマスコ	だますこ	ガリラヤ湖の北東に離れた場所	陶器師	とうきし	粘土をこねて焼き、陶器を作る人
賜る	たまわる	与えられる	灯心	とうしん	ランプなどの芯。灯油に浸して火をともしむもの
タルシシ	たるしし	現在のスペイン	同盟	どうめい	個人・団体または国家などが、互いに共通の目的を達成するために同一の行動をとることを約束すること。また、それによって成立した関係
戯れ	たわむれ	ふざけること。たわむれること			

のりしろ

イザヤ書難解単語表 13

とが	とが	罰されるべき行為。罪
床	とこ	室内の板を張った所。ゆか。寝る場所
とこしえ	とこしえ	永遠
とざす	とざす	閉いている所をしめる
トバル	とばる	おそらく黒海周辺にあった国
とび	とび	タカ科の鳥。全長約 60 センチ。全身茶色で、翼の下面に白斑がある。尾は凹形。ピーヒョロロと鳴きながら羽ばたかず、輪を描いて飛ぶ
とびつどう	とびつどう	飛び集う
ドマ	どま	エドム、エドム人を指す
どもり	どもり	発声器官に痙攣(けいれん)が起こり、第 1 音が円滑に出なかったり、ある音を繰り返したり伸ばしたりする言語障害
どよめく	どよめく	音が鳴りひびく。とどろきひびく
とりで	とりで	要所に築く小規模な城
とらう	どらう	土でできた牢屋
ナイル	ないる	エジプトに流れる大きな川
なぎがら	なぎがら	死んで魂の抜けてしまったからだ。死体
ナフタリ	なふたり	十二支族のひとつ
なり(どよめく、ひびく)	なり	鳴る、さわぐ、ひびく
成る	なる	物事ができ上がる。実現する。成就する
におい油	においあぶら	香料の入った油
ニスロク	にすろく	偶像崇拜の神
になう	になう	ある物事を支え、推し進める。また、自分の責任として身に引き受ける
ニムリム	にむりむ	死海南東沿岸の川
乳香	にゆうこう	カンラン科の常緑高木。また、その樹脂。樹脂は芳香があり、古代エジプト時代からの薫香料。
にわか	にわか	物事が急に起こるさま。突然
布さらし	ぬのさらし	布を水や日光にあてて漂白したり、染色後の洗いとる行為
ネゲブ	ねげぶ	死海南西にある国
ネバヨテ	ねばよて	アラビヤに位置する国、あるいは都市
ネボ	ねぼ	死海北東に位置するネボ山

イザヤ書難解単語表 14

臨む	のぞむ	出会う、直面する
ノブ	のぶ	エルサレムの城壁のすぐ外にある集落で、神殿の東門を見下ろす位置にある。
野ぶどう	のぶどう	おいしくない野生のぶどう
背信	はいしん	信頼や約束を裏切ること。信義にそむくこと
はかり	はかり	道具を用いて、物の長さ・量・重さなどをはかること、またはその道具
計りごと	はかりごと	計画されたできごと
計りなわ	はかりなわ	長さをはかるための縄
白堊	はくあ	石灰岩の一種。主成分は炭酸カルシウム。白堊の原料とする。チョーク。
はざま	はざま	物と物との間の狭い所
はしくれ	はしくれ	木などの端を切り落としたもの。切れ端
バシャン	ばしゃん	イスラエルの近隣の国、ガラリヤ湖の東
旗	はた	遠くから見える目印になるもの
機	はた	織物を織る道具
機織り	はたおり	機で布を織ること、またはその機械
旗ざお	はたざお	旗を掲げる棒、さお
パテ	ばて	約 22 リットルの液体容量
パテロス	ばてろす	エゼキエル 29:14 参照
鼻輪	はなわ	昔のイスラエル女性が鼻の脇につけていた飾り
ハネス	はねす	エジプトの都市
バビロン	ばびろん	バビロニア王国の首都、現在のイラクあたり
ハマテ	はまて	スリヤの上方にある都市
はらむ(はらめる)	はらむ	子をお腹に宿す、妊娠する
ハラシ	はらん	スリヤの上方に位置する国バダン・アラムの都市
腫物	はれもの	はれもの。できもの
パロ	ばろ	エジプトの王の総称、ファラオともいう
万軍	ばんぐん	多くの(全ての)軍隊
燔祭	はんさい	神にささげる焼いて行いうけにえ
万象	ばんしょう	さまざまの形。形あるすべてのもの
はんだづけ	はんだづけ	はんだで金属を接合すること。また、その接合したもの
緋	ひ	赤い色

のりしろ

イザヤ書難解単語表 15

火打石	ひうちいし	玉髓に似た石英の一種。緻密(ちみつ)で硬く、灰色や黒色のものが多い。火打ち金と打ち合わせて発火させ、火打ち道具として用いた。
ヒゼキヤ	ひぜきや	ユダの第 13 代の王、神に使えた善王
日時計	ひどけい	時刻の目盛りをつけた平板上に指針を固定し、太陽の光を受けてできる指針の影の位置によって時刻を知るもの
ひねもす	ひねもす	一日中
火の舌	ひのした	火がまるで食べ物を取り込むようにとりこみ燃えつくしていく様子
ヒビびと	ひびびと	イスラエルが来る前にカナンに住んでいた民族。不信仰と異教の神を崇拝していた。
ひよう	ひよう	主に積乱雲から降る直径 5 ミリ以上の氷の粒または塊
不義	ふぎ	正しくない行い
服役	ふくえき	監獄に拘置されること
不信	ふしん	不信仰(?)
ブト	ぶと	おそらく現在のリビア? ブテとも書いてある
ふところ	ふところ	衣服を着たときの、胸のあたりの内側の部分
船綱	ふなづな	船をとめる綱
ぶよ	ぶよ	双翅(そうし)目目玉科の昆虫の総称。体は小形で短く、頭部に大きい複眼をもつ。刺されると、痛みが激しく、はれる。幼虫は水中にすむ。ぶと。ぶよ
ふるい	ふるい	円形・方形の枠の下に、網を張った道具。粒状のものをに入れて振って、網目を通る細かいものをより分ける
ぶんどり品	ぶんどりひん	戦利品としてうばった物
ベエル・エリム	べえる・えりむ	モアブ内あるいはその周辺にあった町
ベガ	べが	イスラエル王国 19 代目の王
ヘシボン	へしぼん	アンモンにありネボ山の北側に位置する都市
ベヒルキヤ	べひるきや	ユダ王国の祭司、エリヤキムの父
ペラジム山	べらじむやま	おそらくダビデがペリシテびとを打ち破った場所。サムエル記下 5:20 参照
ペリシテ人	ペリしてびと	古代パレスチナの民族。前 13～前 12 世紀ごろパレスチナに侵入し建国。鉄器をもち好戦的でイスラエル民族を圧迫した。

イザヤ書難解単語表 16

ベル	べる	ユダ王国内にあった山(?)
宝玉	ほうぎよく	貴重な玉。宝石。宝珠
暴君	ぼうくん	人民を苦しめる暴虐な君主
芳香	ほうこう	良い香り
報復	ほうふく	仕返しをすること
謀略	ぼうりやく	人をあざむくようなはかりごと
亡霊	ぼうれい	なくなった人々の霊、死者の魂
ボズラ	ぼずら	エドム近隣の国あるいは都市
帆柱	ほぼしら	船の帆を張る柱
ほふり場	ほふりば	牛や羊をほふる場所
ほふる	ほふる	こす、切り裂く
誉	ほまれ	誇りとするに足る事柄。また、よいという評判を得ること。名誉
ホメル	ほめる	約 220 リットルの容量
捕虜	ほりよ	戦争などで敵に捕らえられた人。とりこ
ホロナイム	ほろないむ	死海南東の町
まいない	まいない	賄賂(わいろ)
まがき	まがき	粗末につくった垣根(かきね)
牧草	まきぐさ	家畜に食べさせる草
巻物	まきもの	文字を書いた長い紙を巻いたもの
まぐさおけ	まぐさおけ	馬のえさの干し草をいれる桶(おけ)
幕屋	まくや	幕を張りめぐらした小屋
まぐわ	まぐわ	牛や馬にひかせて水田の土をかきならす農具。長さ 1 メートルほどの横の柄に、刃を櫛(くし)状に取り付けたもの
まじない師	まじないし	不可思議なものの威力を借りて、災いや病気などを起こしたり、また除いたりする術を持つ者
枺	ます	液体や穀物などの分量をはかる容器
またたくまに	またたくまに	まばたくほどのごく短い間。瞬間
まつりごと	まつりごと	国を治める仕事、政治
マデメナ	まದೆめな	おそらくイスラエル北部の町、アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる
まどろむ	まどろむ	眠くてうとうとする
マナセ	まなせ	ヨセフの子、十二支族に数えられる

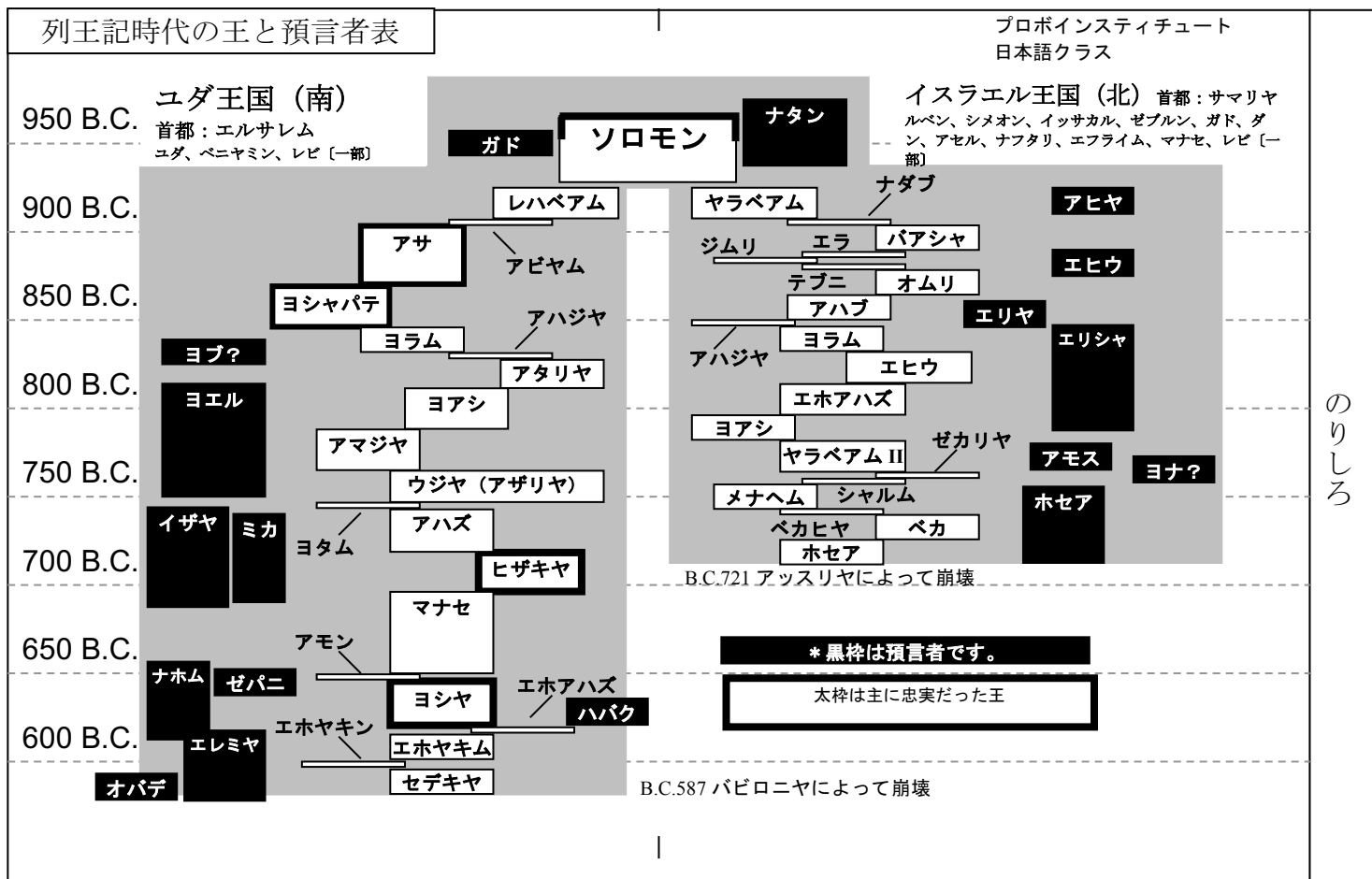
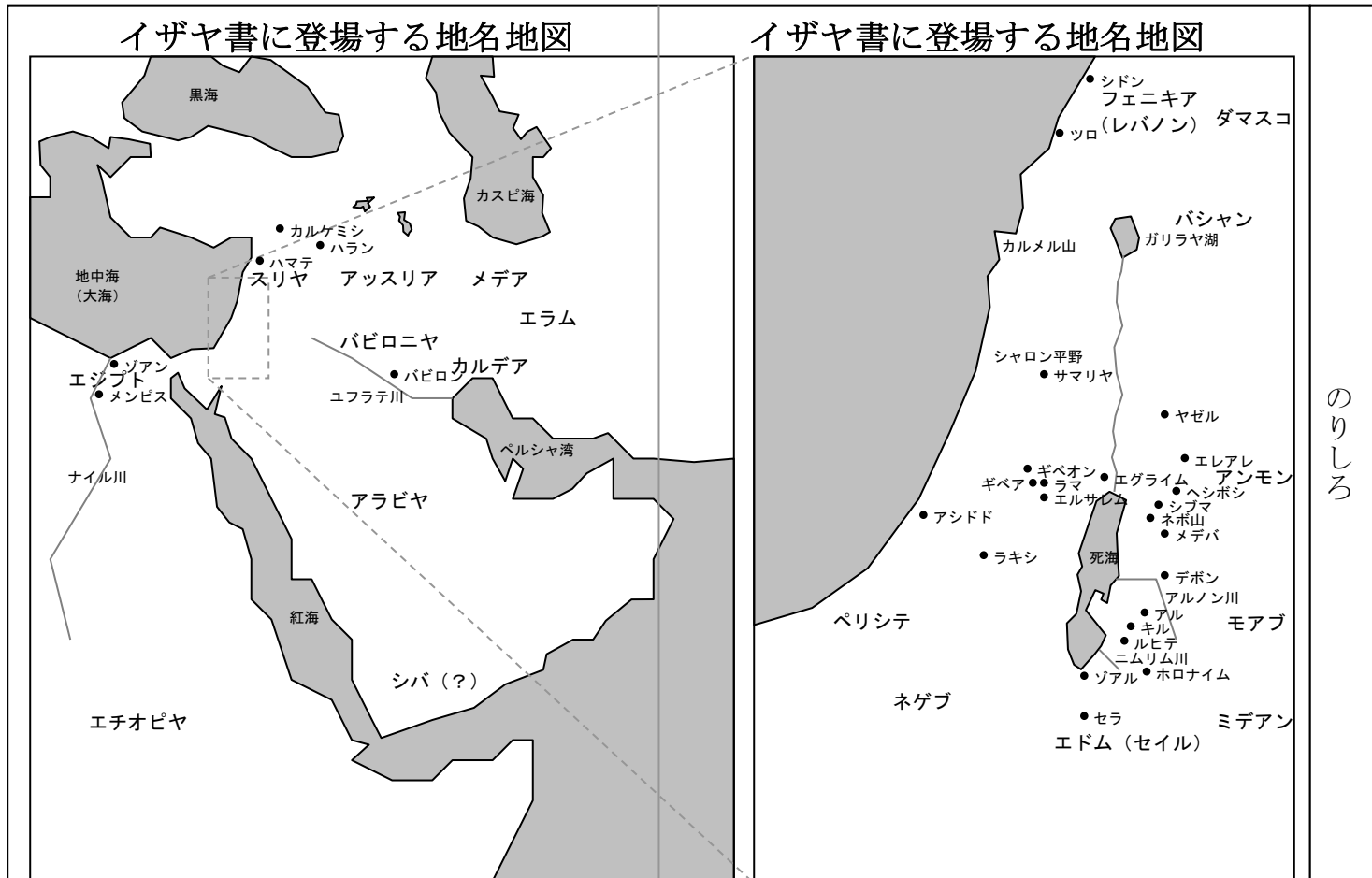
のりしろ

イザヤ書難解単語表 17			イザヤ書難解単語表 18		
守り袋	まもりぶくろ	守り札を入れて身につけておく袋。おまもり	もろもろ	もろもろ	多くのもの。さまざまのもの
ミクマシ	みくまし	おそらくイスラエル北部の町、アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる	やかた	やかた	地位・身分ある人の住む屋敷
みくら	みくら	神の座られる場所	焼き印	やきいん	火で熱して物に押し当てて焼き跡をつけるための金属性の印。また、それで押ししたるし
ミグロン	みぐろん	おそらくイスラエル北部の町、アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる	夜具	やぐ	夜、寝るときに用いる布団・毛布などの総称。寝具
ミデアン	みであん	紅海の北側に位置する土地	やぐら	やぐら	城門や城壁の上につくった一段高い建物。敵状の偵察や射撃のための高樓
みどりご	みどりご	生まれたばかりの子供、あるいは3歳ぐらいまでの幼児	ヤコブ	やこぶ	イスラエル12支族の親、イサクの息子
みなしご	みなしご	親のいない子供	ヤゼル	やぜる	死海北北東にある都市
見張りびと	みはりびと	敵の攻撃に備えて城壁などから見張る人	ヤハズ	やはず	場所是不明だがモアブ周辺と思われる。もしかするとネボ山の近くにあるエハズのことも
耳しい	みみしい	耳の聞こえない人	やまあらし	やまあらし	齧齧(げっし)目やマアラン科の哺乳類の総称。頭胴長 35～90センチ、尾長 17～23センチ。体の上面に針状の中空の剛毛が生えている。
耳輪	みみわ	耳につけるかざり、イヤリング類	ヤワン	やわん	ギリシアを指すと思われる
ミルトス	みるとす	フトモモ科の植物、ギンバイカとも言う。ミルトスは生命力が強く、切られても長く生きることから不死の象徴となった。ユダヤ教の中では仮庵の祭り、結婚式などにも用いられる。	遊女	ゆうじょ	酒宴などで男性の世話をする女または売春婦
むなしい	むなしい	空虚である。内容がない。無益である。むだである	ユダ	ゆだ	ユダ(南)王国BC587バビロニアによって崩壊
目しい	めしいい	目の見えない人	ユフラテ川	ゆふらてがわ	主としてイラクを貫流する河川。
メデア	めであ	カスピ海の南に位置する国	酔いどれ	よいどれ	ひどく酒に酔った人。よっぱらい
メデバ	めでば	死海北東の都市	養父	ようふ	養子先の父
めのう	めのう	石英の結晶の集合体(玉髄(ぎよくずい))で、色や透明度の違いにより層状の縞模様をもつもの。色は乳白・灰・赤褐色など変化に富む。宝石・装飾品とされ、また硬質なので乳鉢にも使われる。	よこしま	よこしま	正しくないこと。道にはずれていること
メロダグ・バラダン	めろだぐ・ばらだん	バビロンの王	よし	よし	植物アシの別名
メンピス	めんびす	エジプトの都市、メンフィス	ヨタム	よたむ	ユダ王国 11 代目の王
モアブ	もあぶ	死海南東、エドムの上方面にある国	夜回り	よまわり	夜中、警備や防火のために町を見回る人
猛禽	もうきん	肉食性の大型の鳥類、例: ワシ、タカ	陰府(黄泉)	よみ	死者の国、地獄
もうける	もうける	こしらえる、作る、設置する	夜もすがら	よもすがら	一晩中
もぐらもち	もぐらもち	もぐらの別名	ヨルダン	よるだん	ヨルダン川
もだせ	もだせ	もだす(黙す)口をつぐみ黙ること	よろず	よろず	すべてのこと。万事
もと	もと	物の下の部分。また、そのあたり。した	よろめく	よろめく	足どりが確かでなく倒れそうになる。よろける
もみがら	もみがら	麦や米の外皮、中身をとった後の皮	ライシ	らいし	イスラエル北部、ヨルダン川の水源地に位置する町
モレク	もれく	偶像崇拜の神	ラキシ	らきし	ユダ王国南方の要塞都市
			落胆	らくたん	期待や希望どおりにならずがっかりすること
			騾馬	らば	雄ロバと雌ウマとの交配による一代雑種

のりしろ

イザヤ書難解単語表 19			イザヤ書難解単語表		
ラハブ	らはぶ	恐ろしい怪物。イスラエルを助けた遊女ラハブとは別。	(メモ欄)		
ラブシャケ	らぶしゃけ	アッスリヤの王の使い。エルサレムの包囲を任されていた。			
ラマ	らま	エルサレムから北へ 10 キロの都市			
離縁状	りえんじょう	夫が妻を離縁するときにその旨を記して渡す書状			
リンモン	りんもん	おそらくイスラエル北部の町、アッスリヤがエルサレムを攻めるときに通過すると思われる			
塁	るい	土を積み重ねてつくった構築物。とりで			
ルデ	るで	前後の文章からすると現在のヨーロッパあたりに位置した古代国家と思われる			
ルヒテ	るひて	死海南東東、モアブにある都市			
礼服	れいふく	儀式や特別な機会に着る服			
靈妙	れいみょう	人知ではばかり知れないほどに、奥深くすぐれていること			
黎明	れいめい	夜明け明け方			
レゼフ	れぜふ	アッスリヤによって滅ぼされた古代都市			
レヂン	れちん	スリヤの王			
レバノン	ればのん	フェニキアの国、イスラエル王国に隣接し、地中海側に存在した国			
レバノンの香柏	ればのんのこうはく	レバノン国で産出された当時有名な良い香りのする高級木材			
レビびと	れびびと	十二支族の一つ、土地をもたず祭司の職をつかさどる			
レビヤタン	れびやたん	へび、サタン在意			
レマリヤ	れまりや	イスラエル王国の王ベガの父			
老練	ろうれん	多く経験を積んで、物事に慣れ、巧みであること			
わざ	わざ	おこない。行為。所業。しわざ			
煩わす	わずらわす	心配させる、悩ませる			
渡し	わたし	人や貨物を舟で向こう岸に渡すこと。また、その舟や、舟の着く場所。			
わらべ	わらべ	こども			

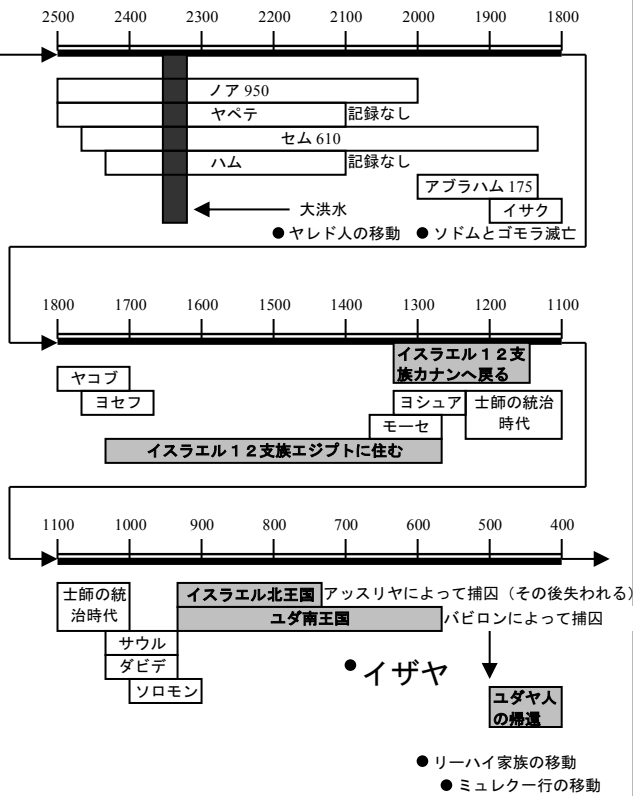
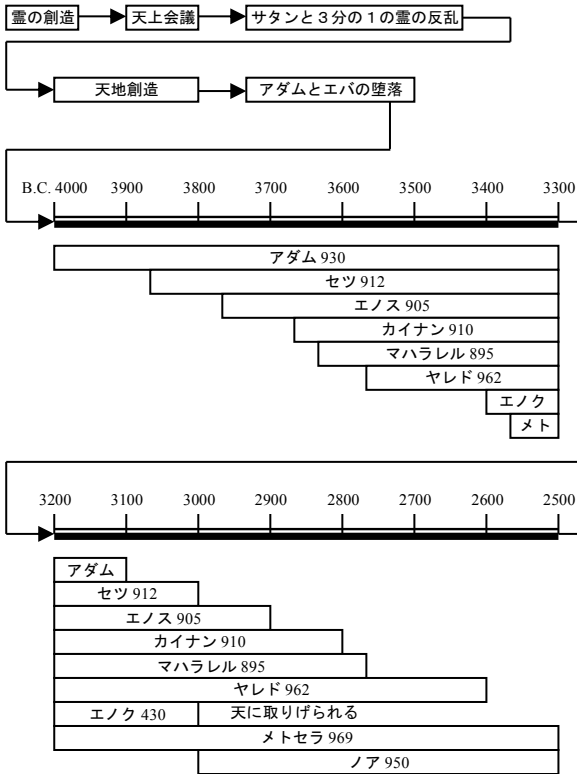
のりしろ





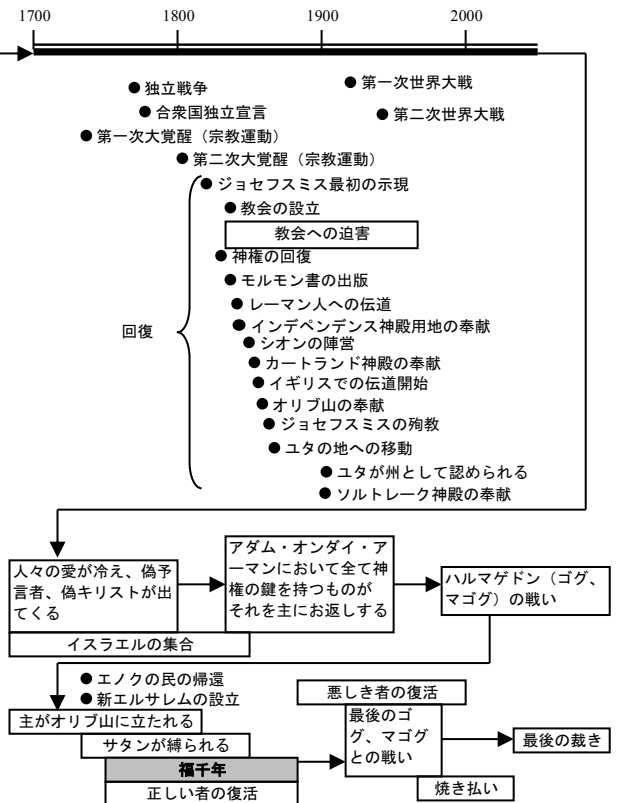
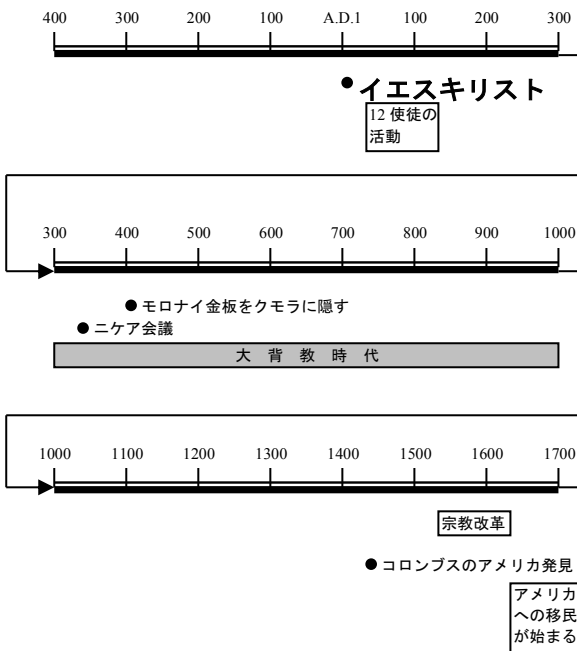
福音年表 1

福音年表 2



福音年表 3

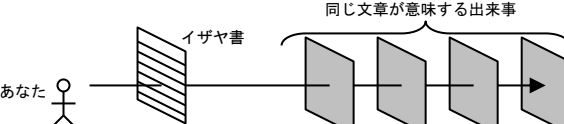
福音年表 4



のりしろ

のりしろ

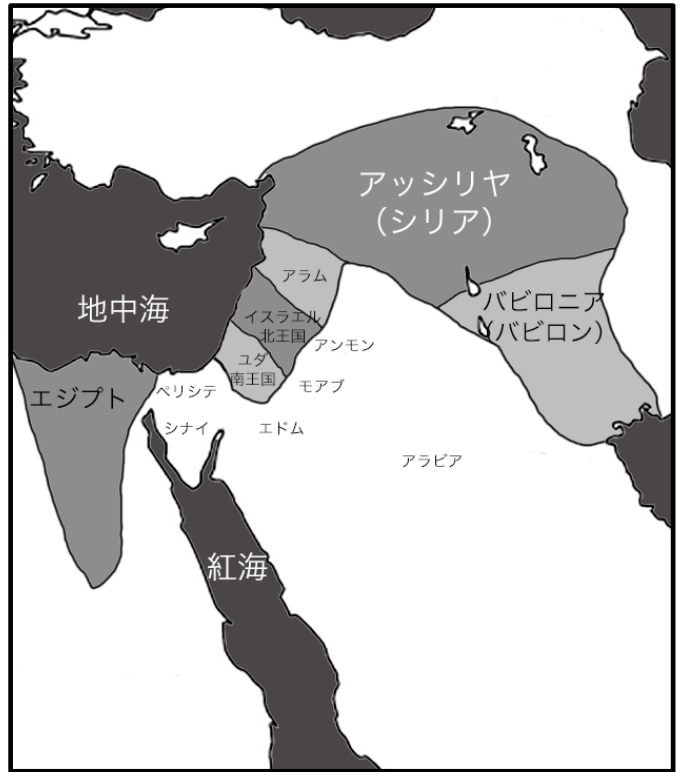
ヘブライ文法について1	ヘブライ文法について2	のりしろ
<p>ヘブライ文法には独特な表現方法があります。この表現方法を理解することはイザヤ書を読み解く上で非常に効果があります。最も注目すべき表現法は並行方（パラレリズム）、比喩的表現方法、それと両義性（多元性）です。</p> <p style="text-align: center;"><b><u>平行法（パラレリズム）</u></b></p> <p>古代イスラエルではバビルスや巻物を読むことは一般的でなく、伝承者の口伝によって記録が伝えられていきました。そのなかで、覚えやすく伝えやすい並行法（繰り返し）というのが生まれてきたのです。その部分自体が大切な意味を伝えたり、前後の文章の強調点となったりします。ここにあげるものはあくまでも基本であって、実際にはいろいろな使い方が存在し、沢山使われています。現代で言えば歌のさび（リフレイン）のような感じとを考えてください</p> <p>-7つの平行法の基本的使用方法－ （BYU ルドロー著「イザヤ：預言者、先見者、そして詩人」より抜粋）</p> <p><b>同義語による繰り返し（同義平行法）</b> 最初の行で言われた同等に意味を別の言葉で繰り返します。 例） A) 生はその飼い主を知り、 B) <u>ろばはその主人のまぐさおけを知る。</u> <span style="float: right;">（イザヤ 1:3）</span></p> <p><b>反語による繰り返し（反語並行法）</b> 二つの文章が全く反対の意味を繰り返します。 例） A) もし、あなたが快く従うなら、地の良き物を食べることができ る。 B) <u>しかし</u>、あなたがたが拒みそむくならば、つるぎで滅ぼされる。 <span style="float: right;">（イザヤ 1:19-20）</span></p>	<p><b>象徴による繰り返し（象徴並行法）</b> 象徴を使って意味を繰り返します。 例） A) たといあなたがたの罪は<u>緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。</u> B) <u>紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。</u> <span style="float: right;">（イザヤ 1:18）</span></p> <p><b>組み合わせによる繰り返し（総合並行法）</b> 第2文が来ることで第1文の意味を完成させます。 例） A) わたしは子を養い育てた、 B) しかし彼らはわたしに<u>そむいた。</u> <span style="float: right;">（イザヤ 1:2）</span></p> <p><b>意味の合成による繰り返し（合成並行法）</b> 同じ意味の言葉を繰り返して強調します。 例） A) ああ、罪深い国びと、 B) <u>不義を負う民、</u> C) <u>悪をなす者のすえ、</u> D) <u>墮落せる子らよ。</u> <span style="float: right;">（イザヤ 1:4）</span></p> <p><b>意味の盛り上げによる繰り返し（クライマックス並行法）</b> 意味を重ねる繰り返しで内容を盛り上げていきます。 例） A) あなたがたの国は荒れすたれ、 B) 町々は火で焼かれ、 C) 田畑のものはあなたがたの前で外国人に食われ、 <span style="float: right;">（イザヤ 1:7）</span> ※盛り上がりによって次に来るものを強調します</p>	

ヘブライ文法について3	ヘブライ文法について4	のりしろ
<p><b>文章をひっくり返す繰り返し（カイアズマス）</b> 使われた文章を逆の順番で繰り返します。この形がギリシア語の「X（カイ）」に似ていることから名づけられました。非常に洗練された文法で、特に靈感によって与えられた予言詩に見られます。 例） A) あなたはこの民の心を鈍くし、 B) その耳を聞こえにくくし、 C) その目を閉ざしなさい。 C') これは彼らがその目で見、 B') その耳で聞き、 A') その心で悟り、 <u>悔い改めていやされることのないためである。</u> <span style="float: right;">（イザヤ 6:10）</span> ※必ずしも繰り返し部分が近くにあるとは限りません。</p> <p style="text-align: center;"><b><u>比喩的表現方法</u></b></p> <p>キリストは地上で教えられた時、たとえを沢山用いられました。その中にはぶどうの木、麦、羊、油、光、道、いろいろなものがありました。これらのものは当時のイスラエル人にはとても身近なものであってわかりやすく、理解を深めるのにとても役立つものでした。また、主は別の目的でもたとえを使われました。それは予言の御霊によって導かれた人にだけ分かる大切な教えでした。</p> <p>それから、弟子たちがイエスに近寄ってきて言った、「なぜ、彼らに譬でお話しになるのですか」。 そこでイエスは答えて言われた、「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。・・・だから、彼らには譬で語るのである。それは彼らが、見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らないからである。 こうしてイザヤの言った<u>預言が、彼らの上に成就したのである。</u> <u>『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見る</u></p>	<p>が、決して認めない。この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』。 <span style="float: right;">（マタイ 13:10-15）</span> イザヤ書には沢山の比喩的表現が使われています。一つには分かりやすいように。そしてもう一つには熱心に求める者にだけ理解できるように書かれているのです。</p> <p>したがって、聞きなさい。・・・イザヤの言葉はあなたがたには分かりにくい、予言の御霊に満たされている人々には分かりやすい。・・・それゆえ、イザヤの言葉は人の子らにとって価値がある。 <span style="float: right;">（ニファイ第二 25:4-8）</span></p> <p>イザヤに登場する場所や、物の名前の意味を知ることがイザヤ書を理解する上でとても役に立ちます。</p> <p style="text-align: center;"><b><u>両義性（多元性）</u></b></p> <p>イザヤは末日の私達までも見通して予言をしました。その予言の言葉には同じ文章に対していろいろな意味が重なってあります。たとえば「集合」に關しての予言はユダ族のバビロンからの帰還を意味していれば、末日のイスラエルの集合も意味します。このように同じ文章でありながら隠された意味をいくつも見つけることができることを<b>両義性</b>あるいは<b>多元性</b>といいます。これこそが完全なイザヤ書の解説書や口語訳を作ることができない大きな理由の一つなのです。その中にはあなた自身に与えられている神様のメッセージも隠されていることを忘れてはいけません。</p> <p style="text-align: center;">同じ文章が意味する出来事</p> <div></div>	

イザヤ書早見表とモルモン書との対比

1 形式だけの心無い行動に対する警告		34 主に向かって戦った者たちの地のなれのはて	
2 主の山へ6人の目、人に頼ることをやめよ	II Ne 12	35 シオン	
3 支えが取り壊された後の破壊、娘らの崩り物	II Ne 13	36 セネケリアの人便殿、ヒゼキヤ王	
4 七人の女—一人の男/2シオンの設立	II Ne 14	37 ヒゼキヤの祈り	
5 ふどう船の戦い/24回に向かって遠くから来る	II Ne 15	38 ヒゼキヤの病、時が戻る	
6 イサヤの預言者としての召しと民の頑な心	II Ne 16	39 ヒゼキヤを見せる	
7 不信心なバビロン王としてのインマエル	II Ne 17	40 呼ばわる者の声がする。人は喜ぶ	
8 イマエルの翼とそれに従う人々	II Ne 18	41 私はあなたと共にいる	
9 民の光のとりとめとそれに対する抵抗する者たち	II Ne 19	42 私は新しいことを告げよう	
10 フラスの翼とそれに対する抵抗する者たち	II Ne 20	43 新しいことを告げよう	
11 エッサイの樹は民の旗、集合と主の統治	II Ne 21	44 偶像に頼る者よ、私の樹には神はない。クロス王	
12 喜びの歌、衆いの井戸	II Ne 22	45 クロス王、あなたが私を知らなくても	
13 高い山に建てられる所、主の栄光	II Ne 23	46 私はあなたに年を費やすまで強い	
14 サタンの翼	II Ne 24	47 悪人が断られる時	
15 モアブは一夜にして滅ぶ		48 不義な者よ、私を知れ	I Ne 20
16 モアブの滅び（続き）		49 誰が立つ、主は私たちを忘れておられなかった	I Ne 21
17 タイマスの滅び		50 主が私を助けられる	II Ne 7
18 翼の形に国に住む強い民、山の上に立つ旗		51 さめよさめよ力を奮え	
19 大國エジプトからイスラエルの聖者の前には		52 シオンよ、さめよさめよ力を奮え	
20 神足のイサヤ、エジプトの崩壊		53 イエス・キリスト	Mosiah 14
21 神の聖者の託宣、バビロンの滅び		54 主の祝福	II Ne 22
22 幼少のイスラエルの託宣、不義に代わる聖なる者		55 我が思いはあなたの思いよりも高く	
23 シオンは70年忘れられ、そして思い出される		56 神徳で与えられた物	
24 滅びの日に出る災		57 邪な者	
25 主は死を滅ぼし、涙を拭かれる		58 私が選ぶところの所食は	
26 あなたの死者は生る		59 主の手が強いのではない	
27 主と争わないでの保護をうけよ		60 光を放て	
28 大賢者と一つの試みを能たす		61 養ひの木の	
29 深い地の中から出てくる声	II Ne 27	62 私はイスラエルのために休まない	
30 主の言葉にそむける者		63 エドムからる真紅の衣の者/5忘れられたのですか？	
31 主の怒りの日の前に主を恐れ		64 忘れられた者2	
32 聖者の統治		65 私はここにいます/7シオン・備千年	
33 その中に2シオン		66 主の日	

イザヤ時代の対立する国々の位置



国々は常に対立していたわけではなく、時には協力や同盟を組んだりしていました。またバビロンのように途中でアッシリアに代わって勢力を誇るようになる時代もありました。イザヤの生涯の中でも世界はどんどん代わって行っただけです。位置関係がわかるとイザヤの話が読みやすくなります

のりしろ

イザヤ書が難解な理由

イザヤ書が他の聖典と比べてはるかに難しいのには特別な理由があります。聖書の失われた部分をカバーする目的のはずのモルモン書に約30パーセントのイザヤ書がほぼ同じ言葉で重複して記載されていること自体がその重要性を表しています。

まず最初に理解すべきことは全ての人が同じ理解をする必要がないということです。ですから必ず到達しなければいけない地点というものがあるとすればそれは全ての人がによって異なります。逆に言えば全ての人がその与えられた範囲の中で理解できるようになります。

イザヤにはこの地上に生まれてきた他のどの人にもない特別な才能が与えられました。ですからイエス様でさえ名指してイザヤ書を読むように私たちに命じられたのです。その才能とは彼の時代の周りで起きた出来事の単純な描写の中に聖典には収まりきれない神様の救いの計画を織り込んでいくことでした。この救いの計画とは私たちが宣教師から学ぶような基礎から始まり、やがて神様がどれほど私たちを愛しておられ複雑かつはるかに偉大な計画を準備されたのかを知ることができる「救いの計画」のことです。これを学び切るには終わりがありません。ですからイザヤは私たちの知識のレベルが変わることに聖霊を通してより偉大な知識が得られるように特殊な方法で文字を残したのです。イザヤ書を一言で言うのなら「救いの計画の計画書」なのかもしれません。さらに重要なのはその偉大な計画の中に私たち自分自身を見つけることができると言う不思議です。ですからニーファイは「自分自身と全ての人に当てはめてみるがよい」と書いたのです。

イザヤの才能は敵の手によってもほとんど崩されることがありませんでした。ですから聖書の「貴くてわかりやすい部分」がほとんど抜き取られ、書き換えられても「貴くてわかりにくい部分」であるイザヤ書はほぼそのまゝの形で末日まで残りました。それは末日に来る当事者である私たちが主の来臨を迎えるための準備ができるように心を強くし、神の計画の理解を深めるためです。聖見者であるジョセフスミスを通して与えられた数々の鍵を使うことによって私たちはイザヤ書を理解できると言う特別な恩恵を受け、今特別な時代に生きています。イザヤ書は必ず読めるようになります。イザヤ書を読み、他の聖典を学ぶ。このステップを繰り返して、聖霊からの助けを求め続けるとある日突然、イザヤの言葉と他の聖典の意味が繋がって最初の扉が開きます。

イザヤ書を理解するために

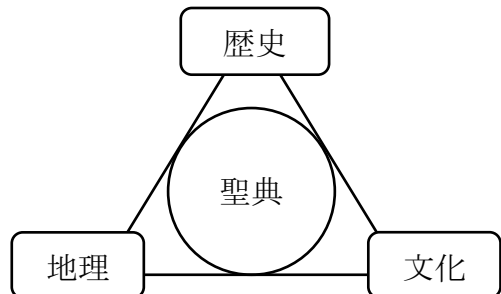
イザヤ書初心者にとってはどこから入ればよいのかで迷ってしまうでしょう。まずは読み慣れることが重要ですが、それだけでは飽きてしまいます。初心者に簡単な入門ステップをご紹介します。

- ステップ1)** 数節を短く読み、自分が喜怒哀楽のうちどれを感じたかを考えます。最初は間違っていて大丈夫です。ただ書いてある文字でどんな気持ちになるかを感じると訓練をします。
- ステップ2)** 読んだ部分に並行法（パラレリズム）が見つかるか探してみます。もし見つければその中、あるいは近くに重要な文章が隠れているかもしれないので探します。
- ステップ3)** 読んだ中に自分の知らない言葉や名前などがあるかどうかを探します。もしあればラッキーです。すぐにその意味を調べれば急に文章全体の意味が通ります。

この3つのステップを繰り返すと次第にイザヤ書が読みやすくなりますので是非お試しください。

イザヤ書の理解の鍵

下の4つはとても深く繋がっています。それぞれを研究し学んでいくとどんどん繋がってイザヤ書が理解しやすくなります。



のりしろ

イザヤ書関連聖句 1	イザヤ書関連聖句 2	のりしろ
<p>さて、わたしはイザヤの言葉を少し書き記して、私の民の中でこれらの言葉を見る者が心を高めて、すべての人のために喜べるようにしよう。さあ、その言葉は次の通りである。あなたがたはこれらを、<u>自分自身とすべての人に当てはめてみるがよい。</u></p> <p>(ニーフアイ第二書 11:8)</p> <p>ところで、わたしニーフアイは、イザヤの口を通して語られた御言葉をこれまで書き記してきたが、今これらについて少し話をしよう。見よ、イザヤが語った多くの事柄は、わたしの民の多くの者にとって理解しにくいものである。それは、彼らがユダヤ人の予言の仕方を知らないからである。・・・したがって、聞きなさい。・・・<u>イザヤの言葉はあなたがたには分かりにくい</u>が、<u>予言の御霊に満たされている人々には分かりやすい</u>。・・・<u>それゆえ、イザヤの言葉は人の子らにとって価値がある。</u></p> <p>(ニーフアイ第二書 25:1-8)</p> <p>あなたがたが覚えているように、わたしはあなたがたに、イザヤの言葉が成就するときのことを語った。見よ、イザヤの言葉は書き記されてあなたがたの前にあるので、それを調べなさい。まことにあなたがたに言う。イザヤの言葉が成就するのは、父が御自分の民、イスラエルの家に立てられた聖約が果たされるときである。</p> <p>(ニーフアイ第三書 20:11-12)</p> <p>さて見よ、私はあなたがたに言う。あなたがたはこれらのことを調べなさい。まことにわたしは、これらのことを<u>熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える。</u></p> <p>イザヤの言葉はまことに偉大だからである。</p> <p>(ニーフアイ第三書 23:1)</p>	<p>イザヤの予言を調べなさい。見よ、私はそれを書き記すことはできないが、まことに見よ、あなたがたに言うておく。この地を所有していて、わたしよりも前に世を去った聖徒たちは叫ぶ。まことに、彼らは地から主に叫ぶ。そして、主が生きておられるように確かに、主は彼らと交わした聖約を思い出されるであろう。</p> <p>(モルモン 8:23)</p> <p><b><u>イザヤ書の順序について</u></b></p> <p>イザヤ書は時間の流れの通りの順序にはなっていない。その構造はまるでパズルのように時間の流れを行ったり来たりしますので、初めて読む場合にはかなり混乱すると思います。例えばイザヤ書6章は彼の預言者としての召しについての話ですから本来なら一番初めに来るべき部分になります。この時間の流れに惑わされないように多元性のことも含めて読み進めていくが重要な鍵とも言えます。</p> <p><b><u>イザヤ書の副作用</u></b></p> <p>イザヤ書を読み進めて行き、ある程度読めて来るようになると不思議な副作用が出てきます。他の聖典が面白いように今までと違う感覚で理解できるようになります。これはイザヤ書を読み解くために必要な聖霊の助けを受ける力と聖句と福音を結びつけていく力が身につくためです。例えば普通の聖典を1-10kgの重さのバーベルと例えるならヨハネの黙示録はだいたい30kg。イザヤ書は100kgです。毎日10kgのバーベルを持ち上げても絶対に100kgを持ち上げるようにはなりません。100kgを持ち上げる練習をし続けてなんとか持ち上げられるようになると10kgのバーベルは驚くほど簡単に持ち上がるようになります。それから一つの副作用は私たち個人に与えられた祝福師の祝福の意味がもっと理解できるようになるということです。祝福師の祝福もいわば聖典の一つですからより理解がしやすくなってきます。</p>	

イザヤ書データ	イザヤ書の謎	のりしろ
<p>イザヤ書： 全66章 合計1292節</p> <p>モルモン書で引用された節： 414節（32%）</p> <p>モルモン書で言い換え引用された節： 34節（3%）</p> <p>新約聖書での引用： 57回</p> <p>教義と聖約での引用、および言い換え： およそ100箇所</p> <p>イザヤ11章、52章の説明 → 教義と聖約113章</p> <p>イザヤ65章のヒント → 教義と聖約101章</p> <p>イザヤ35章、51章、63章、64章のヒント → 教義と聖約133章</p> <p>イザヤの名前の意味： 「エホバの救い」</p> <p>ユダヤの言い伝えによればイザヤはユダ王家との血縁関係があり、4代の王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、そしてヒゼキヤの時代に予言を記録し続けた。また、言い伝えによると、イザヤはヒゼキヤの息子、悪王マナセによって木の幹の内部に埋め込まれたまま、のこぎりで切られて殉教したと言われている。</p> <p>イザヤ書の大まかな内容：</p> <p>1－35章： さばきに関する予言</p> <p>36－39章： 歴史上の出来事、ヒゼキヤ王の記録</p> <p>40－66章： あがないの約束</p> <p><b><u>イザヤ書を理解するために</u></b></p> <p>イザヤ書を心から理解したいと願い、祈り求め、勉強し、努力すること。「求めよ、さらば与えられん。たただけ、さらば開かれん」</p>	<p><b><u>イザヤ書の謎</u></b></p> <p>イザヤ書には一つの大きな謎が存在すると言えます。イザヤ書を紐解いていくとそこに書かれていることは通常の教義、つまり日曜学校で教えられるような内容とさほど変わらない中身だということに気が付き始めるでしょう。それではなぜ数々の預言者がイザヤの言葉を尊重し、そして主ご自身が私たち一人一人にイザヤの言葉を研究するように言われたのでしょうか？これがイザヤ書の謎です。私たちは生涯をかけてその謎に取り組む必要があります。ただ一つわかっているのは「<u>そこには答えがある</u>」ということです。以下に謎解きの助けになるようにいくつかの聖句を挙げておきます。</p> <p>まことにわたしは、これらのことを<u>熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える</u>。イザヤの言葉はまことに偉大だからである。（ニーフアイ第三書 23:1）</p> <p>そして、これらの<u>分かりやすく</u>て貴い部分が取り去られてから、この書物は異邦人であるすべての国民に伝わる。・・・それは、神の小羊にある明瞭さによって人の子らに理解しやすかった、<u>分かりやすく</u>て貴い多くの部分が、その書物から取り去られてしまったため、すなわち小羊の福音からこれらのことが取り去られてしまったためである。（ニーフアイ第一書 13：29）</p> <p>さて、わたしはイザヤの言葉を少し書き記して、・・・すべての人のために喜べるようにしよう。さあ、その言葉は次の通りである。あなたがたはこれらを、<u>自分自身とすべての人に当てはめてみるがよい。</u>（ニーフアイ第二書 11：8）</p> <p>それでわたしは兄たちに言った。「この預言者の言葉を聞いてください。・・・その言葉を自分自身に当てはめてください。この預言者はそのように書き記しているからです。」（ニーフアイ第一書 19：24）</p>	